

【報道関係各位】

2018年2月15日  
一般財団法人 日本気象協会

## 日本気象協会 2018年 春の花粉飛散予測(第4報) 花粉シーズンスタート！ 神奈川や西日本の一部でスギ花粉の飛散開始

◆2018年 春の花粉飛散予測のポイント (2018年2月15日 発表)

- ・ 関東の一部で1月23日に飛散開始
- ・ 東日本・西日本の気温は2月下旬から3月は平年並みか高い見込み
- ・ 晴れて暖かい日は花粉の飛散に注意が必要

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：石川 裕己、以下「日本気象協会」）は、2018年2月15日（木）に2018年春の花粉（スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ）飛散予測（第4報）を発表します。また、詳細な情報を、「2018年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

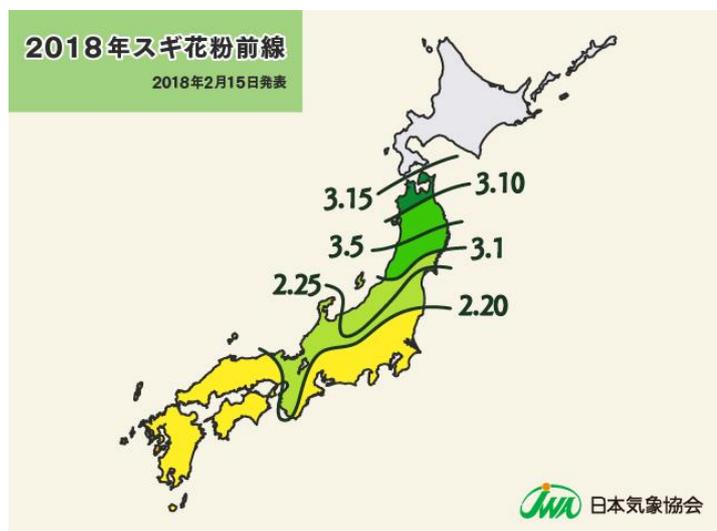
### 1. 2018年シーズンの飛散開始時期

1月後半から2月上旬にかけて、冬型の気圧配置となる日が多く、1月下旬には数年に一度の強い寒気が流れ込み、全国的に記録的な低温になりました。また日本海側では日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）による大雪に見舞われました。1月22日には本州南岸を通過した低気圧の影響で、西日本から東日本の太平洋側で大雪になったところがありました。2月上旬にも再び強い寒気が流れ込み、西日本で気温が平年を大幅に下回り、北陸地方では数十年ぶり的大雪となりました。

この影響で、多くの地点では花粉の飛散開始が遅れています。しかし、神奈川県など関東の一部では大雪の翌日にあたる1月23日と24日に南寄りの風が強かったため、「飛散開始」が確認されました。西日本などでも飛散開始となったところがあり、花粉シーズンがスタートしています。そのほかの地点でも、「飛散開始」の定義に当てはまらないもののわずかな飛散が確認されています。

今週は東日本や西日本で日によって気温差があるものの、平年並みか高くなる日もあるため、まだ飛散開始となっていない西日本や東日本の地点でも、花粉の飛散が始まるところがあるでしょう。2月下旬から3月にかけては東日本や西日本では平年並みか高くなる予想のため、北陸でも飛散開始となる見込みです。

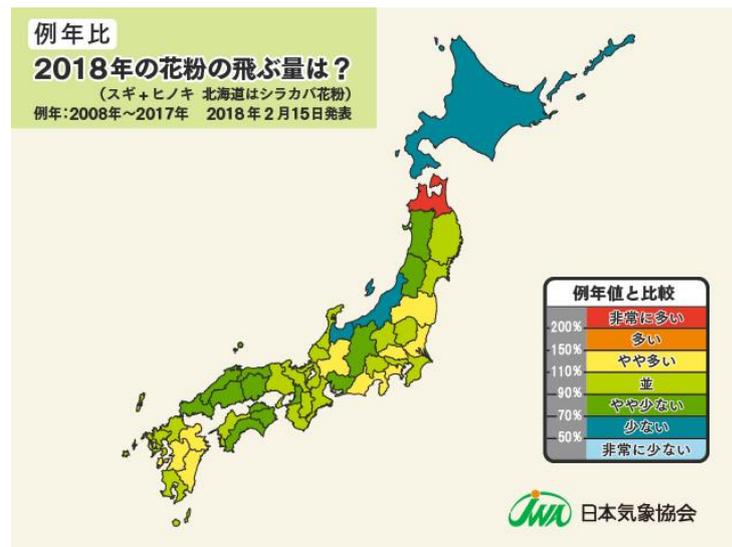
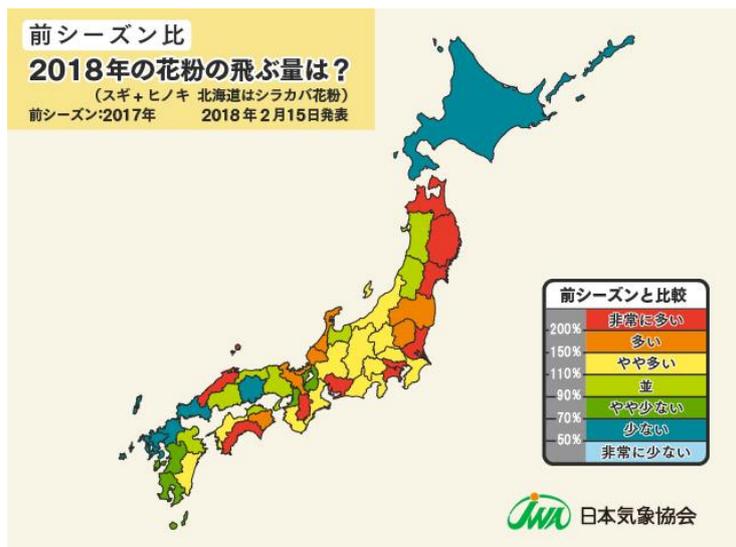
一方、北日本では3月上旬にかけて平年並みか平年より低い見込みですが、2月下旬には東北南部で、3月上旬には東北北部でも花粉の飛散が始まる予想です。3月中旬から4月は平年並みか高くなるため、北海道の飛散開始は例年通り4月下旬になる見込みです。



※飛散開始日：1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日

## 2. 2018年シーズンの花粉飛散傾向

2018年春の花粉飛散予測は、東北から近畿、四国地方までの広い範囲で、前シーズンの飛散量を上回る見込みです。東北から中国、四国地方にかけて、前シーズン比で「非常に多い」飛散量の都道府県があり、注意が必要です。一方、例年比で見ると、東北と東海地方ではやや多く、特に青森県では現地調査の結果から、青森市内で雄花の着花量が多いこともあり、「非常に多い」予想としています。関東甲信、近畿、九州地方では例年並みとなるでしょう。北海道、北陸、中国、四国地方では例年を下回る見込みです。



地方	飛散量 (地方平均値%)		2017年夏(6~8月)の気象		
	例年比	前シーズン比	気温	降水量	日照時間
北海道	少ない (60%)	少ない (50%)	平年並	多い	平年並
東北	やや多い (110%)	非常に多い (210%)	平年並	多い	平年並
関東甲信	例年並 (100%)	多い (150%)	高い	少ない	平年並
北陸	やや少ない (80%)	やや多い (130%)	平年並	かなり多い	多い
東海	やや多い (110%)	やや多い (120%)	高い	少ない	多い
近畿	例年並 (90%)	やや多い (110%)	高い	平年並	多い
中国	やや少ない (80%)	前シーズン並 (90%)	高い	平年並	多い
四国	やや少ない (80%)	多い (150%)	高い	平年並	多い
九州	例年並 (100%)	やや少ない (70%)	高い	少ない	多い



### 3. 各地のピーク予測

スギ花粉のピークは、福岡では2月下旬から3月上旬、高松・広島・大阪・名古屋では3月上旬から中旬でしょう。金沢と仙台では3月中旬から下旬にピークを迎える見込みです。東京のピークは3月上旬から4月上旬となり、多く飛ぶ期間が長いでしょう。

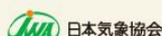
スギ花粉のピークが終わる頃になると、ヒノキ花粉のピークが始まります。福岡では3月下旬から4月上旬、広島では4月上旬、高松・大阪・名古屋・東京では4月上旬から中旬の見込みです。金沢と仙台は4月を中心にヒノキ花粉が飛散しますが、飛散量は他地点と比べると少ないため、はっきりとしたピークはないでしょう。

スギ・ヒノキ花粉の飛散量がピークになる時期は、花粉シーズン中の気温や予想される総飛散量と関係があると考えられます。東日本や西日本では、2月下旬から3月にかけて気温が平年並みか高くなる予想です。北日本では、3月上旬まで平年並みか平年より低い見込みですが、3月中旬から4月は平年並みか高くなるでしょう。ピーク時期を早めるほどではないため、スギ・ヒノキ花粉それぞれのピーク時期は例年並みの見込みです。

#### 2018年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2018年2月15日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大阪	スギ									
	ヒノキ									
広島	スギ									
	ヒノキ									
高松	スギ									
	ヒノキ									
福岡	スギ									
	ヒノキ									



#### 2018年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2018年2月15日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
仙台	スギ									
	ヒノキ									ピークなし
東京	スギ									
	ヒノキ									
名古屋	スギ									
	ヒノキ									
金沢	スギ									
	ヒノキ									ピークなし



### 4. 日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は1990年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は、前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

花粉の元となる植物の育成には、前年夏（6月～8月）の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散量が多くなるといわれています。花芽は夏の早い段階で育つため、日本気象協会の花粉飛散予測では6月と7月の気象条件を特に重視して予測を発表しています。

日本気象協会の花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」の協力のもとで、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。



## こんな天気の日には花粉に注意

① 雨上がりの翌日



② 晴れて気温が高い



③ 空気が乾燥する日



④ 風が強い日



 日本気象協会



【染色液で染めたスギ花粉】

【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	: 前シーズン (例年) の 200% 以上
多い	: 前シーズン (例年) の 150% 以上 200% 未満
やや多い	: 前シーズン (例年) の 110% 以上 150% 未満
前シーズン(例年)並	: 前シーズン (例年) の 90% 以上 110% 未満
やや少ない	: 前シーズン (例年) の 70% 以上 90% 未満
少ない	: 前シーズン (例年) の 50% 以上 70% 未満
非常に少ない	: 前シーズン (例年) の 50% 未満

---

前シーズン	: 2017 年シーズン飛散量
例年	: 過去 10 年(2008～2017 年)の平均値

【2017 年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	: 1981～2010 年の平均値
----	-------------------

以上